Ⅱ-3-②

令和4年度　学校評価表

（最終）

三原市立三原小学校

a　学校教育目標	郷土に誇りをもち，夢や目標に向かって主体的に取り組む子どもの育成	b　経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命）郷土に誇りをもち，夢や目標を語る児童の育成 【ビジョン】（自校の将来像）郷土に誇りをもち，夢や目標に向かって主体的・協働的に課題解決に取り組む子どもを育てる教育活動を創造する。

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c　中期経営目標	d　短期経営目標	e　目標達成のための方策等	f　評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 適正	不明	不適正	mコメント
確かな学力の育成	自ら考え，自ら学びに向う児童の育成	基礎・基本の定着	学力向上に向けた取組の充実（授業改善・授業力向上・学力向上強化週間，桜山タイム）	①国語科（漢字・学期末の平均）・算数科（学期末）のテスト80点以上の児童80%以上 ②NRT各教科の標準偏差が昨年度以上（各学年）	①国・算のテスト80点以上の児童80%以上 ②全学年昨年度の標準偏差以上	①73.7% ②40%	①82.2% （2学期末） ②40%	①102% ②40%	B	①1学期は，80点以上80%以上を達成できた学年・教科が少なく，達成値も低かったが，2学期には達成できる学年・教科が増え，全体的な達成値も向上させることができた。 ②昨年度と比較できる10項目のうち，昨年度よりも標準偏差が上回ったのは4項目のみだった。（3年生・5年生の国語・算数）	①単元末テストの実施までに，しっかりと繰り返し学習やプレテストを行い，自信をもってテストに臨める環境をつくること，基礎・基本の習得が厳しい児童の個別の指導時間を確保することを大事にする。 ②桜山タイムでアシストシートを行う，模擬問題を行うことでNRTのテストの形態に慣れさせる等，3学期を中心にNRTの対策を行っていく。	○			○全体的に子供たちが落ち着いて学習していた。 ○継続は力なり。繰り返し行い定着を図る桜山タイムの改善策は有効である。 ○地域の課題を児童がどう捉えるかによって今後の取組の方向性が示される。 ○NRTの評価指標は全国の標準偏差値を上回ることを目標値にしてもよいと感じた。 ○特別支援教育の充実が図られ，一人一人の子供たちが力をつけている。
		学習意欲の向上 （学びに向かう力の育成）	プロジェクト型学習の考えを基にした単元開発（カリキュラムマネジメント，課題発見・解決学習） 家庭学習強化週間の実施	ニ中校区アンケートにおける肯定的回答 ①「将来の夢や目標をもっている」 ②「授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいる」 ③「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」「学校がある地域のよいところを知っている」	①80% ②80% ③80%	①87.0% ②86.6% ③78.8%	①87.9% ②89.7% ③79.5% （2月末）	①109% ②112% ③99%	A	①学年によって多少の差はあるが，夢や目標をもつ児童の割合を全体的に増加させることができた。 ②自ら考え取り組む，探究的な学習を積み重ねたことで，子どもたちの意識も向上させることができた。 ③地域のよさを見つけられる児童は増えたが，地域の課題を自分ごとで捉えている児童は多くないことが分かった。	①夢や目標をもつよさを感じられるように，PDCAサイクルを意識し，目標に対する取組や，成果を評価する機会を確保する。 ②探究テーマに対して，児童が考えたくなる課題を設定したり，選択肢を用意したりする等，自己決定の場を大事にする。 ③引き続き，地域との連携を計画的，継続的に実施していく。	○			
豊かな心の育成	生活指導項目の指導の徹底と体験活動の充実による豊かな心の育成	生活指導5項目の指導の徹底	あいさつ，時間厳守，ピカピカ無言掃除，右側歩行，靴揃えのうち，重点「あいさつ」の徹底	児童アンケートで，三原小あいさつレベル3（元気よく・相手を見て・あいさつを返す）ができていると実感する児童の割合	90%	72.2%	69.6%	77.3%	C	レベル3以上のあいさつができたと実感する児童の割合は72.2%であり，目標値には届いていない。学年別にみると，高学年になるにつれ，元気な声で挨拶をしにくいという結果が得られた。また，教職員の見取りとしても，挨拶を返すことが難しい児童は多く，自分から笑顔で挨拶ができる児童との二極化が進んでいる。	低学年では挨拶をすることやしてもらえることの嬉しさ，中学年ではマナーとして，高学年では人との円滑なコミュニケーションを図るため等，発達段階に応じた意義を学ばせていき，実践意欲をもたせていく。また，挨拶は本人の元気がないとできにくいという視点から，楽しく登校できる学校づくりを土台として考え，日々の教育活動全体で意識していけるようにする。	○			○学校内で挨拶をする児童にたくさん出会った。地域にも広がることを願う。 ○少子化の中，異学年での縦割り班活動の強化は子供たちのコミュニケーション能力の形成に大いに役立つ取組である。
		自己肯定感の向上	友達との関わりの強化 認め合う集団づくり	QUアンケート，学校生活意欲総合点の分布において，36点中28点以上の児童の割合	80%	77.7%	78.2%	97.8%	B	結果は77.7%で，目標値にはわずかに届いていない。学年別で見ると，1年生＝74.3%，2年生＝72.9%，3年生＝88.6%，4年生＝75%，5年生＝85.9%，6年生＝67.5%であった。4つの学年で目標値に届いていないため，学年別での指導や学校を通しての指導が必要であると考えられる。	学級での取り組みとして，係活動や当番活動を充実させ，学級内での役割を意識させることで，認め合う集団作りをしていく。また，ソーシャルスキルトレーニングや構成的グループエンカウンターを取り入れ，友達同士の関わりを強め，集団を作っていく。学校全体の取り組みとしては，縦割り班活動・掃除を実施し，異学年集団の中での自分の役割を意識させ，認め合う集団作りをしていく。	○			
健やかな体	健康教育と教育活動の工夫による運動能力・体力の育成	体力の向上	全項目の中から課題となる項目（「ソフトボール投げ」）の改善運動を全校で実施	全校のソフトボール投げ　県平均以上の児童が80%以上。 （上半期：70%以上　　下半期：80%）	80%	51.88%	58%	72.5%	C	結果は，58%で目標値には届いていない。上半期の測定から下半期の再測定では，6.12%上昇した。学年別でみると，1年生＝28%，2年生＝61.3%，3年生＝65.1%，4年生＝57.8%，5年生＝64.2%，6年生＝69.2%であった。特に，低学年の結果が上昇できておらず，体の動かし方や投げ方のタイミングなどの指導を行っていく必要がある。また，本校だけでなく広島県全体として体力の低下が見られるため，運動の良さや活動の場の設定を設けていく必要がある。	①準備運動（5～10分）の中に，体ほぐし運動等を取り入れたり，体幹を鍛える運動を行ったりする。（ストレッチやスクワット運動等） ②委員会で外遊びを推奨する声かけや企画に取り組み（ドッジボール大会等），楽しく体を動かす良さに気付かせながら，体を動かす習慣作りをする。	○			○手洗いの徹底は意外と困難と思うが，習慣化するまで粘り強く継続してほしい。
		家庭での生活習慣の定着	年2回の生活習慣実態調査の実施 保護者啓発活動の実施 児童への生活指導の実施	健康週間の調査で，全体の平均が4点以上である児童を80%以上にする。	80%	58.4%	48.2%	60.3%	C	健康週間の調査で，全体の平均が4点以上である児童の割合は，60.3%であり，目標値には届いていない。全体的にTV視聴時間が1～2時間程度と良好であった。しかし，課題として，手洗いの数値が大幅に減少している。原因として，周りでコロナウイルスに感染したことがある人が増加したことにより，手洗いに対する意識の低下が考えられる。また，手洗いの数値が下がったことにより，インフルエンザの感染が増加した。	家庭や学校での手洗いを徹底させるために，手洗いの意味や基本的な手洗いの仕方を改めて指導していく。コロナウイルスやインフルエンザの予防としてだけではなく，手を清潔に保つということでも児童に手洗いを習慣化させる。養護教諭と連携しながら，学校全体で手洗いに関する意識付けをしていく。	○			○最近，外で遊んでいる子供を見ることもないのも納得である。子供たちの体力の低下は学校だけで解決できる，問題ではないような気がする。
信頼される学校	保護者・地域から信頼される学校づくり	地域を繋ぐ教育活動の工夫	①地域の行事への参加等（ゲストティーチャーの招聘，幼・保・小・中の連携） ②学年便りの作成 ③HPの更新	①各学年，学期に1回以上 ②③月に1回以上	100%	①100% ②100% ③33.3%	①100% ②85．71% ③100%	①100% ②86.7% ③100%	B	①どの学年も，2，3学期に3回以上，地域連携をしたりオンライン交流をしたりして，地域と学校を繋ぐ教育活動を十分に行うことができた。 ②月に1回以上発行している学年は7学年中6学年であった。生徒指導上の諸問題に対処したため，作成が難しかった。 ③HPは，後半は，7学年とも各学年で担当を決めて，締め切りを意識して取り組むことができた。	①引き続き，総合的な学習の授業を中心に，地域学習を進める際に，関係機関との連携を大切にしたり，人材バンクに在籍してくださるゲストティーチャーと積極的に繋がれるようにする。 ②計画的に発行できるように学年部で協働して作成できるようにする。 ③引き続き，学年で担当を決めて，画像を撮りためておくようにする。	○			○どの学年も地域と学校をつなぐ教育活動が十分に出来ている。 ○会議を月1回にまとめることは時間の有効活用につながっており良い。 ○改善に向けての先生方の試行錯誤に頭が下がる。 ○様々なアイディアのもと働き方改革について粘り強く進めている。
		働き方改革 （次世代の働き方への体制づくり）	計画的な時間外勤務の短縮 業務改善の推進	時間外勤務月45h以下を6か月以上実施	100%	40.7%	68.9%	68.9%	C	時間外勤務月45H以下を6か月以上達成できた職員は68.9%（中間より+28）であり，毎月第一火曜日を5時間授業とし，各種会議・委員会を実施したことや6時間目カットで成績事務を行ったことは効果があったと考える。しかしながら部内の仕事量調整や児童数の多い学級の業務量減については課題が残っている。	毎月第一火曜日を5時間授業とした定例会議は継続，また繁忙期（4・7・12・3月）には6時間目カットを計画的に実施し，事務時間の確保を行う。校務分掌見直し会議を年に2回実施し，業務量の平準化，行事のあり方について継続して検討を行い，働き方改革につなげる。	○			

【j：自己評価　評価】
A：100≦（目標達成）　　B：80≦（ほぼ達成）＜100　　C：60≦（もう少し）＜80　　D：（できていない）＜60

【l：学校関係者評価　評価】
イ：自己評価は適正である。　　ハ：わからない。
ロ：自己評価は適正でない。